

令和元年ホヤ類調査結果速報 No. 1

令和元年 7月 31 日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

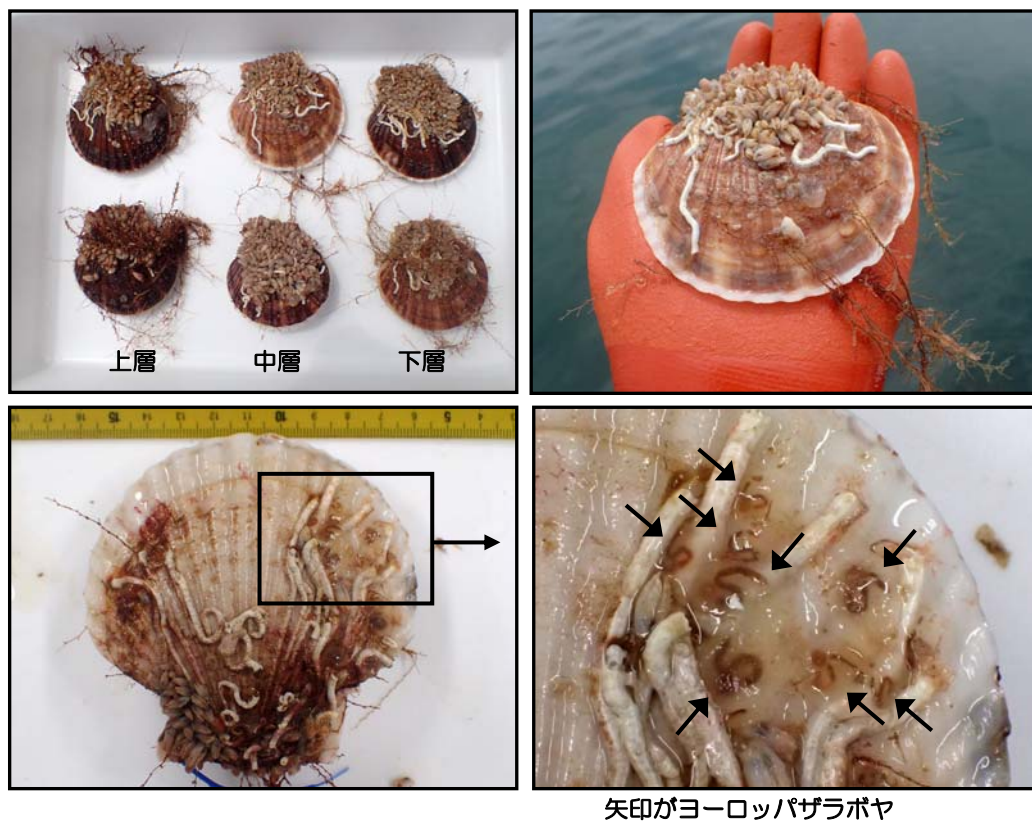
【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

7月25日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着数が増加しています(図3) 肉眼で確認できるサイズの個体も増えています(図1、図2)。
- 付着個体数はホタテガイ1枚あたり28.2個体で(表1)、過去の同時期のデータと比較するとやや多い付着個体数です(図3)。
- 7~8月は噴火湾ではヨーロッパザラボヤの付着数が最も増加する時期です(図3)。この時期の付着数がその後の付着重量を大きく左右することから、次回の調査結果を注視下さい。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和元年7月25日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・夏池 TEL：0138-83-2893

※この調査は北海道ほたて漁業振興協会からの委託研究により実施しています。

1. 耳吊りホタテ貝付着物調査

[調査月日：7月25日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚]

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました(図1)。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数はホタテガイ1枚あたり28.2個体でした。平均サイズは4.6mmで、肉眼でも認識しやすい5mm以上の個体が3割以上を占めていました(図2)。過去5ヶ年の同時期のデータと比較するとやや多い付着個体数です(図3)。今後、最も付着が多くなる7~8月にかけてどの程度個体数が増加するか注視する必要があります。

表1 付着生物調査結果(八雲地区：令和元年7月25日)

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	34.7g	29.6g	27.4g	30.6g
ヨーロッパザラボヤ	1.1g	0.8g	0.4g	0.8g
その他	33.6g	28.8g	27.1g	29.8g
ヨーロッパザラボヤ個体数	10.2個体	44.0個体	30.4個体	28.2個体
平成30年7月(H30.7.25)の個体数	24.8個体	31.0個体	25.0個体	26.9個体
平成29年7月(H29.7.24)の個体数	7.4個体	14.2個体	16.4個体	12.7個体
平成28年6月(H28.6.28)の個体数	16.8個体	22.8個体	21.4個体	20.3個体

※平成28年は7月のデータが欠測のため、6月の調査(6月28日)のデータを示しています。

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成(八雲地区：令和元年6~7月)

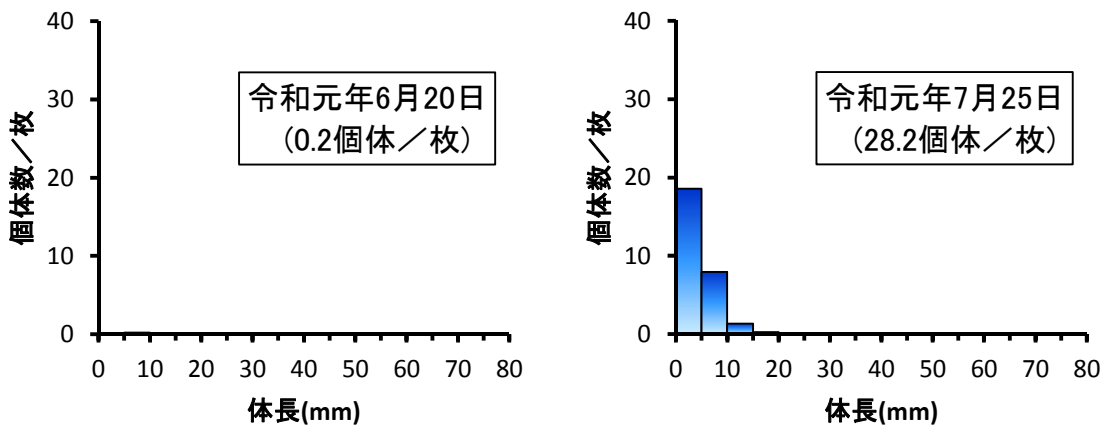
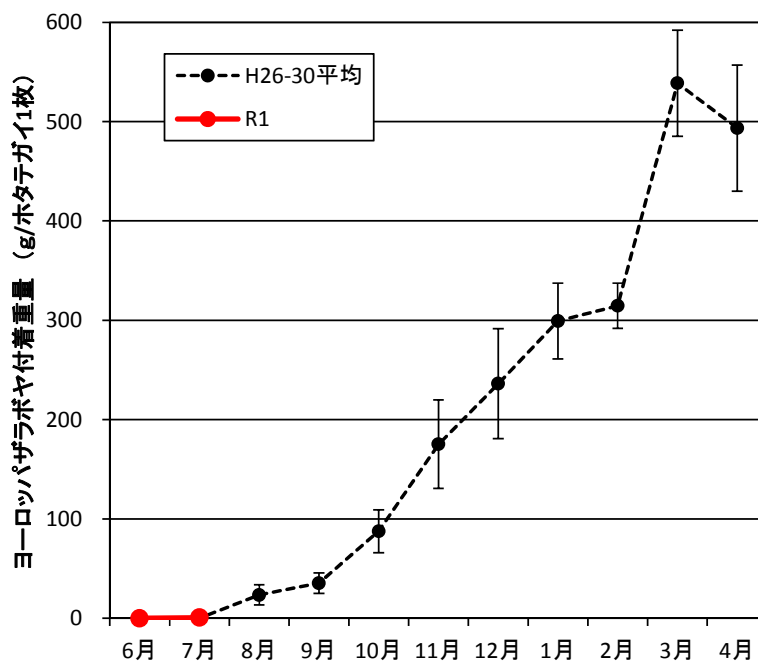
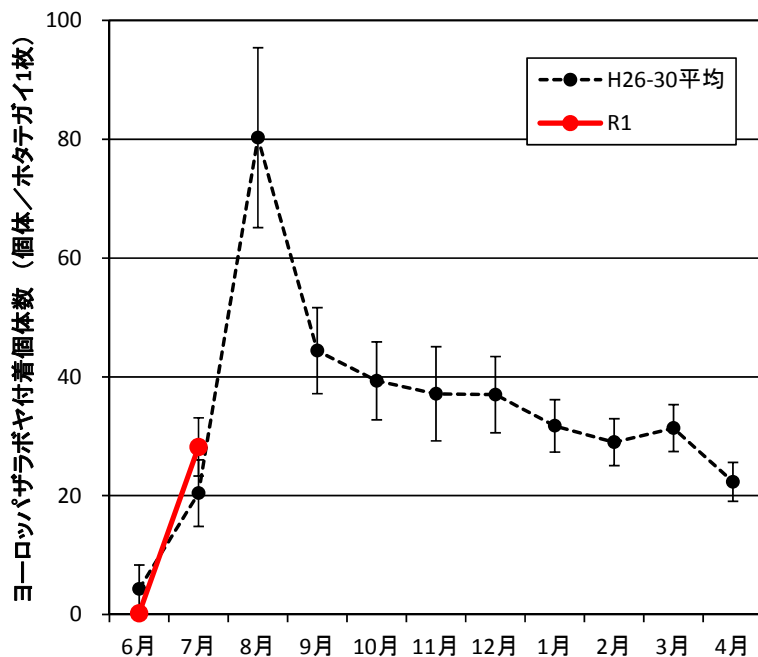


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去5ヶ年（H26～30年）のデータから、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～8月が最も多くなっています。付着重量は10月以降、急激に増加します。